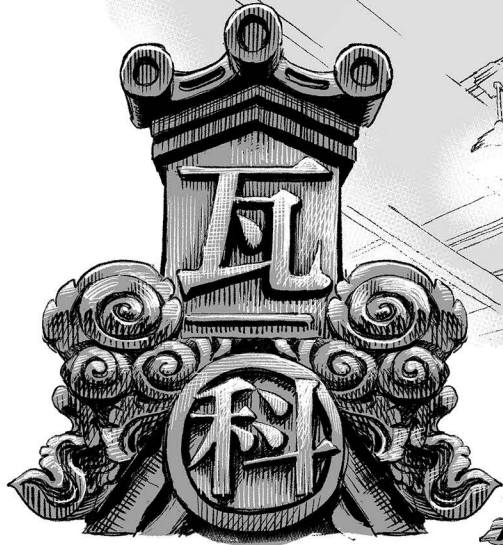
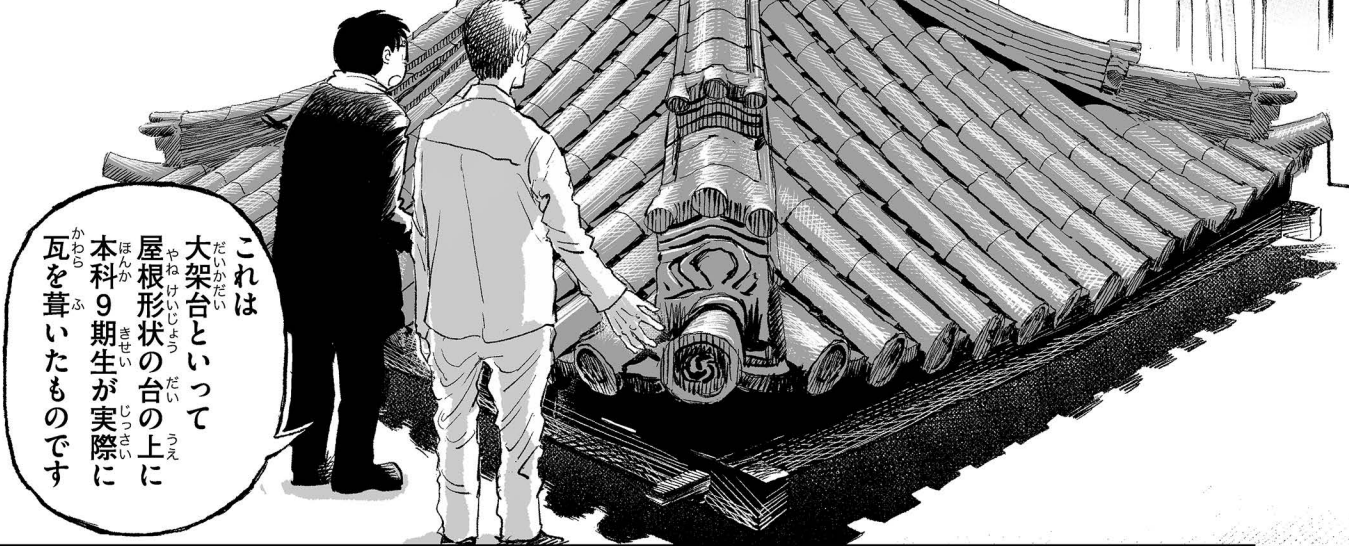
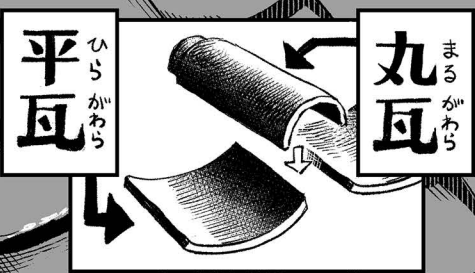




職業大の工房の中で
一際存在感を
放っているのが
この床置きの
瓦屋根だ



これは
大架台といって
屋根形状の台の上に
本科9期生が実際に
瓦を葺いたものです



主に神社仏閣
などの建物は
この葺き方ですね

この瓦の葺き方を
本瓦葺きといって
瓦が仏教と一緒に
伝来した古くからの
葺き方です

この大架台は
こちら側が
寄棟屋根という
形状で

熨斗棟

鬼瓦

反対側は
入母屋屋根
という形状

この箇所は
箕甲という
傾斜をつけた
加工にてあります

本科10期生の生徒は
この大架台を解体し
本瓦葺きの納め方や
下地のつくり方などを
勉強します

軒丸瓦

瓦当

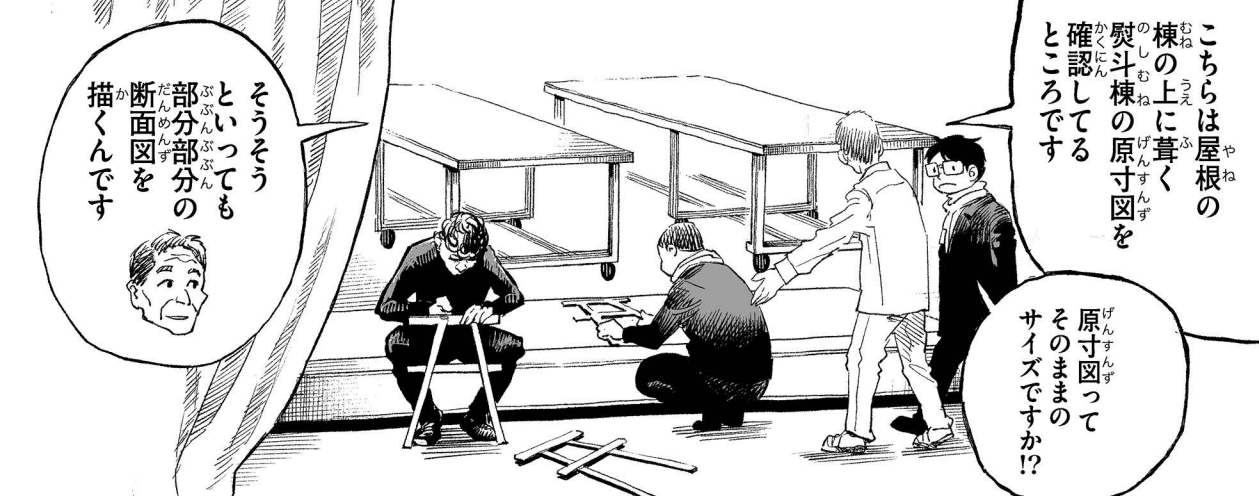
解体前には
こういう真上からの
アングルの
スケッチをします

軒先などを
まっすぐザツと描いて
しまいがちだけど
よく見れば少しずつ
開いていってる事が
わかるはず

じっくり
観察して
描いてほしい
ですね

このように
解体の過程も
勉強しておけば
文化財の修復調査の
ときに役に立つんです

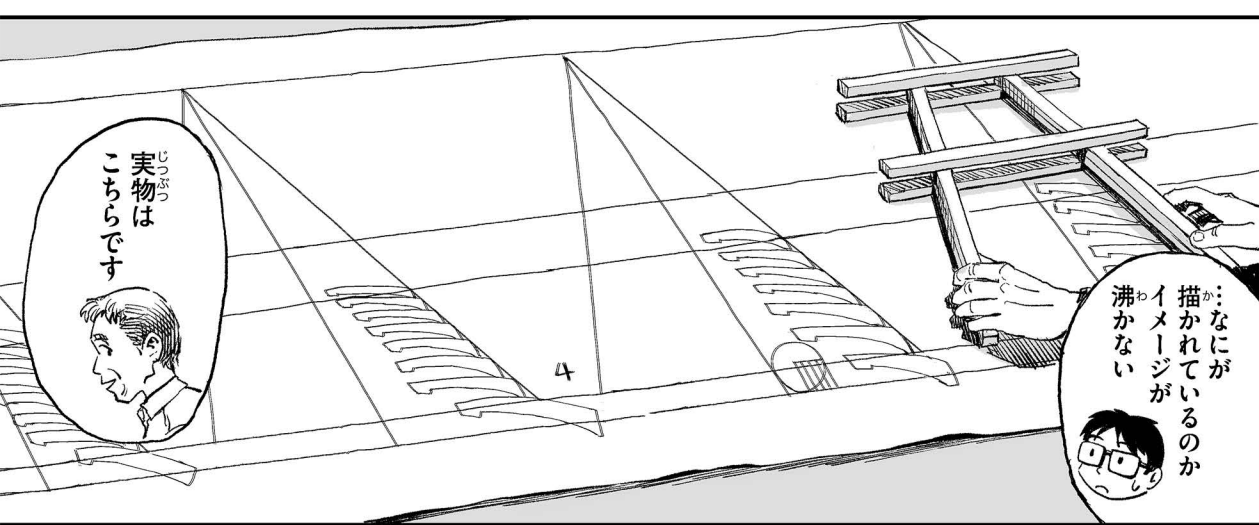
講師
武苗裕之先生



こちらは屋根の棟の上に葺く熨斗棟の原寸図を
確認してる
ところだす

原寸図って
そのままの
サイズですか!?

そうそう
といっても
部分部分の
断面図を
描くんです



なにが
描かれているのか
イメージが
湧かない

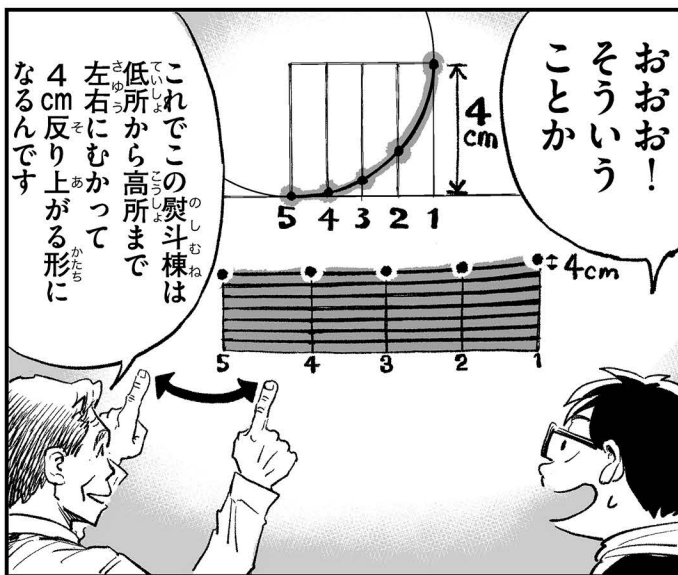
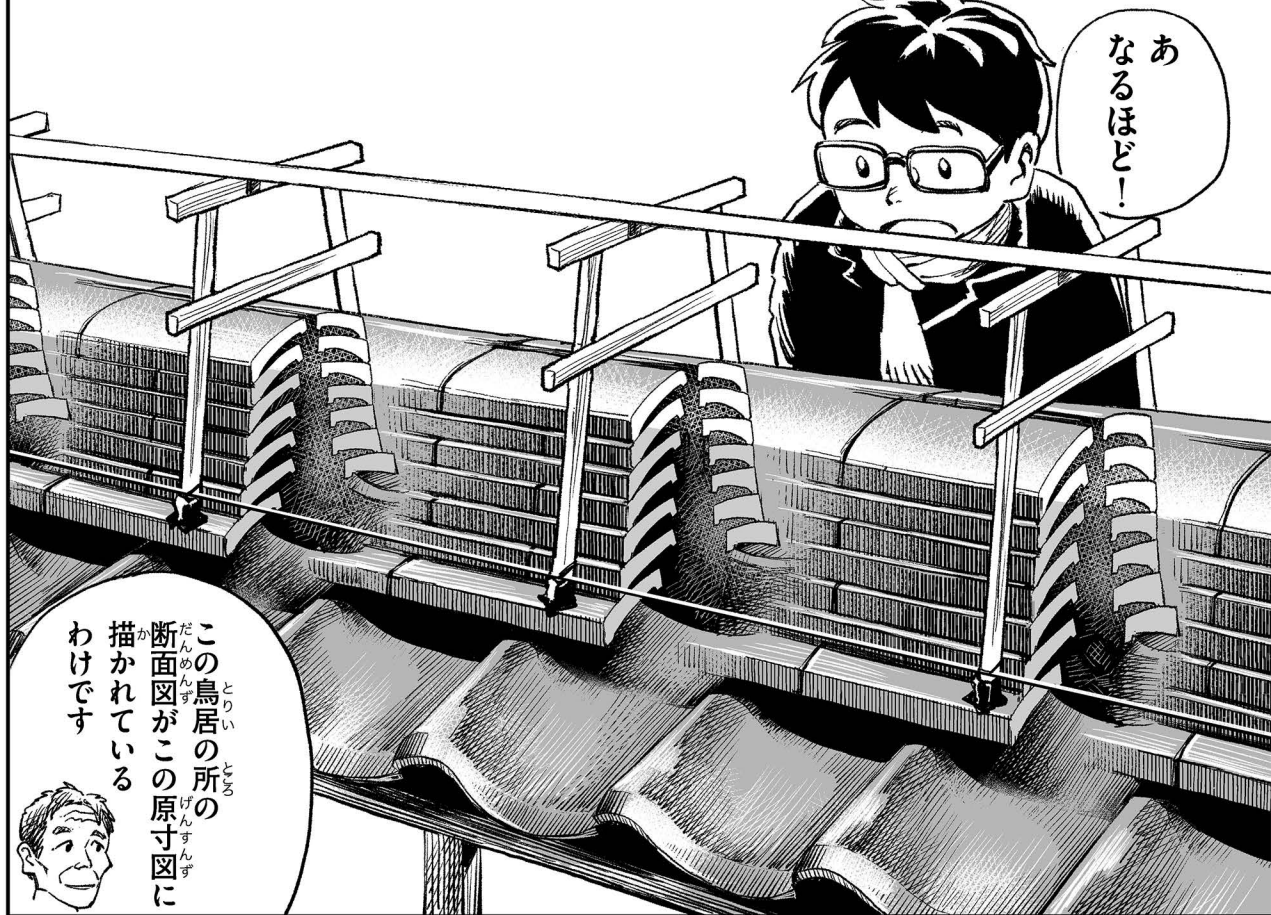
実物は
こちらです



これが熨斗棟
屋根の一番上
のるんです

さつきの
原寸図は
どこをどう
描いたもの
なんでしょう?

つまり
こういうこと
ですよ



原寸図を描いても現場で熨斗棟と鬼瓦の高さが想定からズレたりすることがあります

でもその時なにがどのくらいズレているのかどう調整するか

それを考えるために原寸図は描けたほうが良いんです



職大に来る生徒さんは基本的に技能試験一級に受かるくらいの技術を持っています

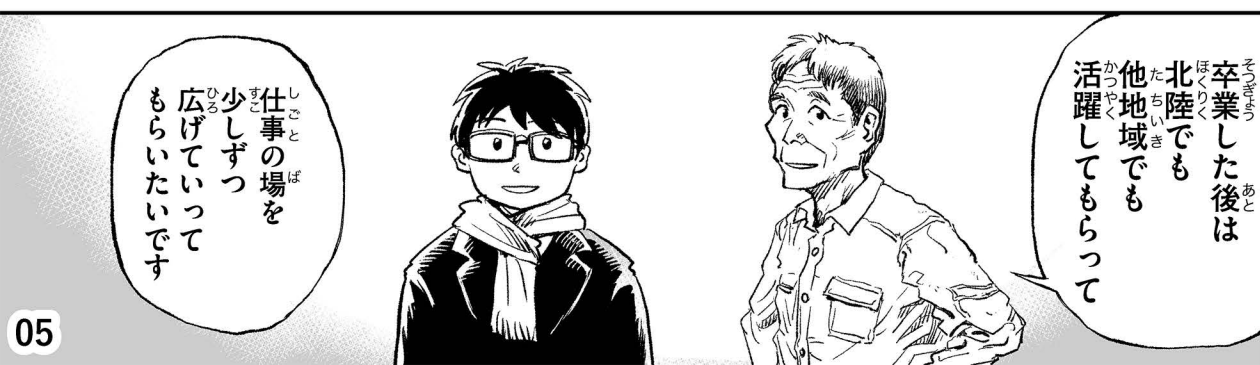
しかし北陸に本瓦葺き屋根が少ないということもあり

普段の仕事ではこういう本瓦葺き屋根の原寸図を自分で描いて瓦を葺くという機会は少なめです



なので職大で日本に古くから伝わる基本的な技術を学んでおけば

いざという時に自分が中心になって図面を作つて瓦を葺けるようになりますからね



卒業した後は北陸でも他地域でも活躍してもらって

仕事の場を少しずつ広げていってもらいたいです

金沢職人ばなし（瓦科・石工科・造園科）

2025年6月10日発行

漫画家 坂上暁仁

発 行 公益社団法人 金沢職人大学校

〒920-0046 石川県金沢市大和町 1 番 1 号

Tel 076-265-8311 Fax 076-225-8314

Webサイト <https://www.k-syokudai.jp/>

©金沢職人大学校2025 <禁無断複製>